

梅田駅アーチ天井改修、並びに それに伴う広告媒体提案について

事業管理本部 事業開発部
鉄道事業本部 建築部
鉄道事業本部 電気部

1

広告事業 <提示案>

1. プロジェクターサイネージ (軌道上ドーム部、5×3mスクリーン・2基)
2. 液晶サイネージ (i-2階段壁面、110インチ(55インチx4面)液晶)
3. パノラマ広告 (ホーム側壁面、大型紙媒体ポスター)



軌道部側は既存広告と共存しながら、アーチ面に大型スクリーン投影するインパクトのある媒体とし、ホーム側は既存広告を再編し、安価で魅力ある大型ポスターを掲出し、それが可能な(広告空き時は単なる)建築仕上げとすることで、お客さまの視界・視点に、タイムリーに広告発信する。

2

広告事業 <提示案>

軌道対向壁面側(プロジェクター)



ホーム壁面側(パノラマ広告)



軌道壁側：想定増益	≒19,200	、維持費	=2,000	、初期費	≒36,000	(液晶含む)
ホーム壁側：想定増益	≒27,000	、維持費	=0	、初期費	≒50,000	
合計	<u>46,200</u>		2,000		<u>86,000</u>	
年間増益：	≒44,200 (46,200-2,000)					

3

広告事業 <提示案>

1. プロジェクターサイネージ (軌道上ドーム部、5×3mスクリーン・2基)
2. 液晶サイネージ (i-2階段壁面、110インチ(55インチx4面)液晶)
3. パノラマ広告 (ホーム側壁面、大型紙媒体ポスター)

の整備により、にぎわいの創出、確実な収益増につなげる。

概算収支(単位:千円) 梅田駅 南上りホーム空間部のみ

サイネージ	年間収益	≒26,000	、初期費	≒36,000	、維持費	≒2,000
パノラマ	年間収益	≒39,000	、初期費	≒50,000	、維持費	≒0
合計		<u>65,000</u>		86,000		2,000

既存広告の年間収益(H24実績) ≒46,000

想定増益(65,000-18,800-2,000) ≒44,200

合計(施設整備後の年間想定収益) 90,200

※ 想定増益：(「新規広告収益・6500万円」-「既存広告撤去による減益・1880万円」-「維持費・200万円」)

※ 維持費は機器維持費のみ計上。別途、インフラ維持費は当局インフラ利用を前提。

4

○外部的評価(団体・組織等から)

- ・梅田駅は、「鉄道の日」(10月14日)記念行事の一環として、国土交通省近畿運輸局管内の特徴ある駅「近畿の駅百選」に選定されている。
- ・梅田駅は「心齋橋駅舎他、御堂筋線の地下駅群」として、平成20年に日本土木学会の選奨土木遺産に選定されている。

※選定理由：半楕円アーチ型の構造により、広大な空間(高天井と無柱)のプラットフォームをつくり出し、照明器具や壁の色彩も加わって、開放的な地下空間として市民に親しまれている。

- ・梅田駅を含む御堂筋線はパリを本部とする国際学術組織 DOCOMOMO (1988年設立)の日本(建築学会系)支部である DOCOMOMO JAPAN により、「日本DOCOMOMO 100選」に選定されている。

このように、開業後80年も変わらず多くの利用者が行き交い、親しまれた伝統ある空間と認知され、駅空間のみならず、シャンデリアの形状・照明演出に対する肯定的評価も多い。

※シャンデリアの評価(インターネットより) ・「蛍光灯のマジック- 地下鉄のシャンデリア」
・「アーチ天井にシャンデリア風に組まれた照明が目を引く」

○歴史的、地理的価値

- ・昭和8年5月に「公営の地下鉄」として最初に開業し、80年後の現在も変わらず、お客さまに親しまれている施設。
- ・他社線(JR、阪急、阪神)とのターミナル駅で、一日の乗降人員が約42万人(地下鉄駅では日本一)にのぼる市内輸送の拠点。
- ・大阪・キタの地下空間の核で、広大空間と照明器具や仕上色も加わり、開放的な地下空間を形成する国内有数の近代建築。

○新たな価値の創造

- ・現在の価値を普遍として将来に継承し、落ち着きのある空間デザインとして、企業イメージアップに貢献できること。
- ・広告やイベントにも最も有効活用できる施設として、現在の価値を目に見える価値(増収)に繋げ、収益貢献できること。

○広告コンテンツの要件

- 業種規制によるもの
 - (1) パチンコ業、公営競技、葬祭業、消費者金融業、避妊具及び生理用品については、承認しない。
- 色彩等意匠規制によるもの
 - (1) 運転士の注意を散漫にさせるものではないこと。
 - (2) 御堂筋線「梅田駅」～「天王寺駅」間のもつブランド力・ブランドイメージを損なうものでないこと。
 - (3) 梅田駅にふさわしい「美しさ」・「楽しさ」・「品位がある」ものとする事。
 - (4) 原色や蛍光色は多用せず、また単に「目立てばよい」ではなく、好感を得られるデザインとすること。

○求められる仕様・材料等

- これまでの歴史的・地理的価値を継承した、快適で明るく開放感のある空間デザインと、安全・安心の確保、メンテナンス性の良さと経済性を兼ね備えた建築材料を採用すること。
- 現行空間に最適な形状・性能を踏襲しながら、より低ランニングコストとなる照明媒体を採用すること。
- これらを踏まえ、新規広告媒体を活用するにあたり、梅田駅の持つ価値を目に見える価値(収益)に転換できる、より効果的な建築仕上げ、照明計画とすること。

梅田駅アーチ天井改修に伴う広告媒体提案(比較)について

事業開発部 事業開発課(2013.6.24)

		軌道側壁面等				ホーム側壁面			天井面
		提案1		●[提案2]		●[提案3]		提案4	提案5
		ドーム部のLEDサイン広告	120インチ液晶広告	ドーム部のプロジェクター広告	110インチ液晶広告	壁面パノラマ広告	アーチ部オプション広告	壁・床面ジャック広告	アーチ天井全面LEDビジョン化(照明兼用)
媒体台数寸法	LED(@8mm) 1基 292インチ	液晶 1基 120インチ	プロジェクター 2基 (5.0×3.0m)	液晶 1基 110インチ	紙媒体 1面(3構成) 別紙	フィルムシート 1面 別紙	フィルム等 1ヶ所 別紙	LED(@8mm) 全面 (23.5×51m)	
収益性	○		○○		◎		△	×	
収益	想定増益分(年)	22.6百万円		19.2百万円		27.0百万円		未定	未定
	新規設置収益	26.0百万円		26.0百万円		37.0百万円	2.0百万円	未定	未定
	既存撤去減収	-3.4百万円		-6.8百万円		-12.0百万円		無	-17.0百万円
初費	機器設置(I)費	35.0百万円	8.0百万円	30.0百万円	無	無	無	900.0百万円	
	取付等建築工費	8.0百万円	2.0百万円	6.0百万円	50.0百万円	無	無	不明	
経費	ランニング(R)費(年)	2.0百万円	1.0百万円	2.0百万円	無	無	無	45.0百万円	
メリット・デメリット	収益性(現行比較)	○	○	○	○	△	△	×	
	費用(I・R)が少ない	△	○	○	◎	◎	◎	×××	
	受電増強が不要	○	○	○	○	○	○	××	
	冷房増強が不要	○	○	○	○	○	○	×	
	メンテナンス性	△	△	△	○	○	○	×	
	PR・にぎわい創出	○	△	○	△	○	○	◎◎ 地下鉄駅の顔に!	
	広告性	○ 媒体としてホット	←	←	←	○ 媒体としてホット	←	△	媒体として未知数 ※イベント性が強い
安全性(リスク評価)	× 機器落下リスク有(軌道上)	△ 機器落下リスク有(ホーム上)	○	△ 機器落下リスク有(ホーム上)	○	○	○	× 機器落下リスク有(軌道上)	
その他収益媒体(既存ドーム広告面)	ホスター4面掲出		ホスター3面掲出					-	
調整事項等	機器等の場所要 駅・運転調整未決		← ← ←		機器等の場所要 駅・運転調整未決 既存広告退去 消火栓・案内板撤去		← ←	機器等の場所要 駅・運転調整未決 変電設備増強要	
構内照明	現状で可		←		現状で可		←	不要(主光源) ※演色性、非常灯?	
建築仕上等	映像を際立たせるため、可能な限り単色・シンプルが良。		投影可能な単色・シンプルが良。無広告時は単なる建築仕上となる。		壁改修要 消火栓・案内板撤去		←	天面仕上 不要	
消費電力(kW)	15	10以下	5程度		0	0	0	1400以下	

その他調整等 ※サイン&プロジェクターを活用した動画による広告(2次利用)は道路管理者から現段階では許可されない。1次利用は無問題。
 ※広告事業者(広告代理店等)は、現行の業態として、広告媒体を買上げ(自社投資)することは、ほとんどない。
 ※既設天井面のフラッグ・バルーン広告の扱いをどうするか。
 ※設置工事の契約・施工手法について具体的な検討が必要。

梅田駅(イメージ)



近年の広告事業の動向(梅田駅周辺の鉄道事業者)

「デジタルサイネージ」

JR西 大阪駅マルチビジョン48

60インチ液晶48面。

稼働率:52% (6分ロール・24枠)

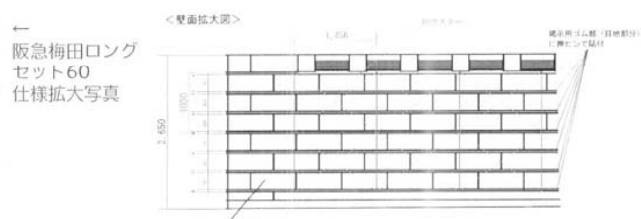
H24年度実績 ≒ 8600万円



「大型パノラマ広告」



阪急梅田ロングセット60 (1週間/販売料金300万)



阪急ロングセット60(壁面) B0ポスター2段×30連。稼働率:94%

H24年度実績 (300万円×80%×52週×94%) ≒ 1億2000万円

当局広告事業の現状

一方、当局主要駅の梅田駅では、**ドームパネル**、**ショーウィンドー**、**バルーン**、**壁シート型**等、従来の広告媒体となっており、収益も堅調ではある。

H24年度実績≒4600万円



3

広告事業

前提条件

- ・サイネージ広告コンテンツは、15秒単位の静止画広告とする。
- ・サイネージ機器の設置・維持については、すべて当局の負担とする。
- ・パノラマ広告によるホーム側壁面の全面改修に伴い、消火栓ボックス、総合案内板、既存広告の移設を行う。

今後の課題・調整事項

- ・サイネージ機器の(入札等)導入・設置方法の具体化
- ・サイネージ本体以外の設置(配管、取付金物等)方法・費用の具体化
- ・消火栓、案内表示板、既設広告の移設の可否
- ・サイネージ運用(コンテンツ作成、機器メンテ手法・費用)手法等の具体化

4